

図工室だより

令和3年 12月 22日

千代田区立九段小学校

校長 清水 明

図画工作科 大高 美和

3年生になると初めての木工が始まります。子どもたちは木材を観察することから始めます。木目や節、ひび割れ、毛羽立ち、香り。「こっこの面がざらざらしているね」「おばあちゃんの家のおいがする」など、様々な感想が出てきます。次に、本来の木の姿を想像しながら年輪を数えます。今回用いたのは12.5×45×1820ミリ・メートルの細い杉材ですが、数えると樹齢14年分の年輪がありました。丸太で見積もると樹齢35年から40年になります。子どもたちは、これから扱う材料は自分たちの親ぐらいの年齢の木だということを知り、驚嘆の声を上げていました。

さて、日本最古の木造建築法隆寺の金堂に用いられた柱は、原始林から伐採された樹齢2千年のヒノキです。直径約2メートルのヒノキから、直径70センチ・メートルの柱を4本切り出して用いられます。最後の法隆寺宮大工の棟梁、西岡常一氏によると、植林よりも様々な木々の中で生き抜いた原始林のヒノキが建材として強いとのこと。2013年に再建された薬師寺も同じく樹齢2千年のヒノキを台湾の原始林から輸入して建てられています。苗から植林されていない原始林のヒノキは地形に合わせて根ががっしりと張り、幹が曲がっていたり、節があったりします。古代の宮大工はただ機械的に製材するのではなく、その個性を生かして建材にして用いました。建材一つ一つが堅牢であり、個性を生かして建てられた法隆寺。これが1300年以上の年月を経てなお、法隆寺が美しい所以なのだということ。

図画工作科も子どもたち一人一人が、自分の個性を再発見する、意欲的な学びの場にしていきます。また、子どもたちが、個性を発揮することで、力強く生きていくための土台をつくる時間にしていきたいと思います。

(参考：草思社 「木のいのち木のこころ 天」西岡常一著/薬師寺公式サイト)

1【11・12月の図工の様子】

3年生「ギコギコ・トントン」

鋸や木材を観察し、切り方を学びました。自分の体に合わせて、切る姿勢をつくり無駄な力を入れないで鋸を引きます。斜めに切ったり、縦に切ったり、様々な形の材料づくりをしました。図工室の様々な太さの余った木材も「お代わりの材料」として意欲的に切りました。



4年生

「紙バンド！つなげてからめてステキエリア」

「裂けるチーズ」ならぬ「裂ける紙バンド」で「造形遊び」をしました。椅子や木枠、黄ボール紙など様々な材料や用具に紙バンドをからめながら、素敵な空間にしていきます。自分の工夫にこだわりをもって活動する子、友達とつなげて一つのテーマで活動する子、お互いの活動を意識し合いながら、お気に入りの場所にすることができました。



5年生 「色と形のハーモニー」

自分のお気に入りの色や模様を付けた板を、糸鋸でゆっくりと、いろいろな方向に板を切り進めて、自分が面白いと思う形に切り出します。色合いと形、角度や組み立て方を考えて自分が一番素敵だと思う組み合わせを見つけて組み立てていきます。



6年生 「墨のうた」

2学期国語で鳥獣戯画を学びましたが、墨で描くのは初めてです。刷毛は豚毛、山羊毛など硬さが異なる毛、へら、荒縄など、さまざまなものを用いて表します。初めは文字を描いていましたが、白抜き剤を生乾きにしてにじませたり、散らしたり、徐々に工夫が生まれます。自分だけの表現を見つけて表します。



2【1月の題材予定】

学年	題材	分野	持ち物
3年	ギコギコ・トントン	工作	軍手 敷物
4年	オリジナル色紙から	平面	敷物
5年	色と形のハーモニー	工作	定規・軍手 敷物
6年	墨の歌（仕上げ） 12歳の力で 組み立て	平面 工作	書道セット 敷物 新聞紙 2日分 絵の具セット

3 お知らせ

「大妻さくらフェスティバル2022」表紙デザイン募集

締め切り 2022年1月7日（金）

賞品 賞状・図書カード（1位5千円分・2位～5位3千円分）

詳細応募はWEBサイトから <http://www.chiiki.otsuma.ac.jp/>

